

京都市立東総合支援学校

令和6年度 前期学校評価について

前期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました

前期学校評価アンケートは、Formsのアンケートで行い、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見を基に、前期の取組について分析をしました。

紙面では、今回の結果と分析、学校の取組内容や改善策等について記載しています。今回の結果や自由記述でいただいたご意見は、全教職員で共有し、課題改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

＜前期学校評価のねらいと方法について＞

（1）ねらい

- ◎ 今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、前期の取組に対する達成状況等を明らかにする
- ◎ 達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取り組む

（2）アンケート実施方法

- ◎ 調査対象 : 児童生徒、保護者、教職員
- ◎ 時 期 : 令和6年9月上旬
- ◎ 回 答 者 : 児童生徒、保護者（1家庭に1枚）、教職員
- ◎ 調査方法 : 5つの選択肢（よくできている、だいたいできている、あまりできていない、できていない、わからない）の総数に対して数値を出し分析しています。その際に「よくできている」「だいたいできている」を肯定的回答とし、「あまりできていない」「できていない」を否定的回答とし数値を出しています。

（3）回答率

	児童生徒（138）	保護者（134）	教職員（116）
回答数	73	116	104
回答率	――	86.6%	89.7%

（4）アンケート結果

- ◎ 「いのち」「よりそい」「つとめ」「ひろがり」「つながり」の重点教育目標別に項目をまとめました。
- ◎ 児童生徒アンケートは肯定的回答、否定的回答、わからないの回答を掲載しています。保護者アンケートは肯定的回答の数値を学部ごとに掲載しています。教職員アンケートは肯定的回答と否定的回答を掲載しています。
- ◎ 実現度の高い（90%以上）項目と、実現度の低い（60%以下）項目に着色をしました。

「いのち」 安心安全な学習環境

児童生徒			肯定的	否定的	わからない		
1	A	先生は、困ったときや不安な時に声をかけたり、思いを受け止めたりしてくれる	80.8	5.5	13.7		
	B	先生は、困ったときや不安な時に声をかけたり、思いを受け止めたりしてくれる					
2	A	使ったものを片付けている	79.5	9.6	11.0		
	B	自分の物や学校の物を整理整頓している					
3	A	避難訓練等で、先生の話や放送を聞いて安全に過ごしている	86.3	2.7	11.0		
	B	避難訓練等で、自分やみんなの安全を守ることについて、考えて行動している					
保護者			小学部	中学部	高等部		
1	教職員は、子どもの様々な様子を見過ごさず丁寧な対応をしている		94.7	100	96.7		
2	学校は、子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮している		92.1	94.4	93.3		
3	学校は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた学習指導をしている		76.3	88.9	91.7		
教職員			肯定的	否定的			
1	子どもの内面から発せられる様々な表情や声に目を向け、耳を傾け丁寧な対応をしている		100	0			
2	子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮している		100	0			
3	避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた学習指導をしている		87.5	6.7			
【「いのち」 安心安全な学習環境】							
・1、2の項目では、全てのアンケートで実現度が高くなりました。この結果は、日ごろから、児童生徒一人一人のいつもと異なる言動や些細な表情から内面を見取ると同時に丁寧に対応しながら教育活動を実践できたことが伺えます。今後も、子どもの様々な様子を見過ごさず丁寧に対応し、子どもが安心安全で過ごしやすい学習環境に配慮していきます。3の項目の避難訓練等は、前期では「火災」「土砂災害」を想定した避難訓練を実施しました。また、各部でも防災学習に取り組み、日ごろから「生活安全、交通安全、災害安全」について体験的な学習を通して学び、安心安全に適切に行動できる力を育んでいます。校内の環境整備については、校舎内の全ての冷房設備の取替え、小学部ホールの床の研磨やワックス掛け、中学部フロアの快適トイレ内（男女共）の非常ボタン設置、プールや農園のスピーカー設置、大きな樹木の剪定を行いました。引き続き、子どもたちが安心安全で過ごしやすい学習環境を整えていきたいと考えています。							

「よりそい」 人権教育の推進

児童生徒			肯定的	否定的	わからない
4	A	友だちと仲良くしている	90.4	2.7	6.8
	B	友だちを大切に思い、仲良くしている			
5	A	先生はやさしく教えてくれる	82.2	4.1	13.7
	B	先生は丁寧な言葉づかいや態度で教えてくれる			
6	A	教室にたくさんの先生がいるので安心している	78.1	9.6	12.3
	B	より多くの先生に見てもらえることで、安心して過ごしている			
保護者			小学部	中学部	高等部
4	子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちをもって過ごしている		60.5	77.8	86.7
5	教職員は、子どもに人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援をしている		94.7	94.4	86.7
6	複数担任制を取り入れたことにより、よりたくさんの目で個に応じた適切な配慮や支援を行い、子ども一人一人に丁寧に寄り添っている		71.1	72.2	88.3

教職員		肯定的	否定的
4	自分と友だちの命を大切にすることや思いやりの心を育む指導、支援をしている	94.2	3.8
5	教職員は、子どもに人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援をしている	99.0	1.0
6	複数担任制を取り入れたことにより、よりたくさん目の目で個に応じた適切な配慮や支援を行い、子ども一人一人に丁寧に寄り添っている	76.0	17.3

【「よりそい」人権教育の推進】

- 4の項目の保護者アンケートでは、小学部の実現度は60.5%、「わからない」の回答率は26.3%となりました。小学部において全ての学校生活の中で、児童同士のやりとりを通して「やさしい言葉で伝える」「相手のペースを考えて行動する」等、友だちや周りの人のことを考えたり、思いやったりする気持ちを育んでいます。今後も、引き続き取り組んでいき、学校で取り組んできたことやできたことを家庭や地域でも発揮し、様々な人や場面で友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを育んでいきたいと考えます。
- 5の項目では、全てのアンケートで実現度80%を超えています。さらに、高い実現度を目指し、今後も教職員が人権を尊重した言葉づかいや態度で指導、支援を行い、児童生徒が安心して通える学校にしていきたいと考えます。
- 6の項目の児童生徒アンケートの実現度は80%前後となりました。このことは、児童生徒が複数の担任と学習や活動をすることで、すぐに質問や相談したり、支援を得たりできることで安心感を持っていると考えています。今後も、複数の目でクラスの児童生徒を見ることで、児童生徒の個々のニーズに応じたよりきめ細やかな指導や支援ができるよう、担任同士が連携を取りながら進めていきたいと思います。

「つとめ」学ぶことの意義

児童生徒			肯定的	否定的	わからない
7	A	学校で頑張っていることがある	82.2	5.5	6.8
	B	目標に向けて学習に取り組んでいる			
8	A	学校での学習や活動は楽しい	87.7	5.5	6.8
	B	学校では、色々なことに自分から挑戦し、考えたり、行動したりしている			
9	A	学校でICT機器を使って学習をしている	72.2	12.5	15.3
	B	学習でICT機器を活用している			
保護者			小学部	中学部	高等部
7	学校は、三者の願いを「個別の包括支援プラン」に反映し、本人、保護者教員と目標を共有している		92.1	88.9	91.7
8	学校は、子どもが生き生きと主体的に学習に取り組めるよう指導・支援をしている		94.7	100	91.7
9	学校は、子どもの学びを深めるために、ICT機器を使って指導・支援している		71.1	66.7	81.7
教職員			肯定的	否定的	
7	三者の願いを「個別の包括支援プラン」に反映し、本人、保護者、教員と目標を共有している		86.5		4.8
8	「個別の包括支援プラン」に、保護者や本人の願いを反映している		92.3		4.8
9	子どもの学びを深めるために、ICT機器を使って指導・支援している		76.0		17.3

【「つとめ」学ぶことの意義】

- 9の項目の児童生徒アンケートの実現度は72.2%、保護者アンケートの実現度は71.1%、教職員アンケートの実現度は76.0%となっています。各部の児童生徒の実態により、使用する頻度や機会は異なっています。動画を見ながらダンスや体操をすることや、インターネットで調べ学習をすること等、使い方は個に応じて様々です。少ない動作で操作しやり遂げられるアプリケーションを使い学習したり、必要な情報をすぐに得たりするなど、タブレット端末を適切に使用することで、学習効果は高まります。そのため、今後もICT支援員の活用や教職員向けのICT学習会を実施し、児童生徒が使いやすいタブレット端末の設定やアプリケーションを知り、個々の学習効果をより高められるように活用していきたいと考えます。

「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現

児童生徒				肯定的	否定的	わからない			
10	A	家でも学校でも約束を守っている		80.8	6.8	12.3			
	B	家庭・地域・学校でもルールやマナーを守っている							
11	A								
	B								
12	A								
	B								
保護者				小学部	中学部	高等部			
10	子どもは、家庭・地域・学校でのルールやマナーを守っている			57.9	72.2	81.7			
11	学校教育目標を理解し、より良い学校になるよう、連携・協力している			65.8	77.8	86.7			
12	学校は、学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して学校の様子を伝えている			94.7	88.9	96.7			
教職員				肯定的	否定的				
10	社会のルールや生活のマナーが守れるよう指導している			94.2	2.9				
11	より良い学校にするための学校教育目標に向けて、保護者や地域等と連携・協力している			77.9	13.5				
12	児童生徒の様子を学校ホームページ、すぐーる、配布物等を通して伝えている			79.8	11.5				
【「ひろがり」社会に開かれた教育課程の実現】									
<p>・10の項目の保護者アンケートでは、実現度が小学部57.9%、中学部72.2%、高等部81.7%となりました。小学部の実現度が低くなっていますが、全ての学校生活の中で「挨拶をする」「廊下は歩く」等様々な学校生活におけるきまりや校外学習では「みんなと一緒に歩く」「横断歩道を渡る」「道路の端を歩く」「公共施設の利用の仕方」等の地域生活におけるきまりを知って守ることに取り組んでいます。これらの日々の学習の中で、多様な場面でルールやマナーを守って自ら行動する力を育んでいます。児童一人一人で、身に付ける力や課題は異なるため、これまで以上に保護者と学習内容について共通理解を図り、個々の目標に応じて取り組んでいきたいと考えています。</p>									

「つながり」場を超える学習

児童生徒				肯定的	否定的	わからない
13	A	学校以外の場所で、友だちや先生と楽しく学習している		72.6	12.3	15.1
	B	交流や地域の場で、人と関わり、自分らしく学習している				
14	A	好きなことややりたいことを伝えている		82.2	6.8	11.0
	B	自分の卒業後の生活に向けて考え伝えている				
15	A					
	B					
保護者				小学部	中学部	高等部
13	学校では、園や小・中（学部）学校や学部間の引継が行われ、指導、支援が継続されている			78.9	77.8	85.0
14	学校は、子どもが地域資源を活用した学習や交流及び共同学習等で、様々な人と関われるよう指導・支援している			71.1	55.6	75.0
15	学校には、本人や保護者と、各部を卒業した後の進路や生活について考える場がある			52.6	77.8	76.7

教職員		肯定的	否定的
13	園や小・中（学部）学校や学部間の引継を行い、指導、支援をしている	77.9	11.5
14	地域資源を活用した学習や交流及び共同学習等で、様々な人との関わりを通して、子どもが意欲的に活動できるよう指導・支援をしている	81.7	10.6
15	本人や保護者と、各部を卒業した後の進路や生活について話をしたり、考えたりしている	77.9	12.5

【「つながり」場を超える学習】

- 児童生徒アンケートの13の項目、保護者、教職員アンケートの14の項目の「地域資源を活用した学習」では、地域の福祉施設や児童施設で利用者の方々とのやりとりを通した学習や、小・中学部では地域の自然、公園を活用し身体を動かす活動等を行なっています。今後も、引き続き、児童生徒の短期目標に応じて地域資源を活用したり地域の方々と学習する機会を設定したりして様々な人と関わっていきたいと思います。「交流及び共同学習」では、小学部や中学部で居住地校交流を行い、居住地域の小・中学校の児童生徒ともに学習をすることで交流を深めています。また、小学部では学校間交流として、地域の小学校と年に5回程度、交流し一緒に学習する場を設定しています。中学部は地域の大学と連携し、大学の学生と共に和太鼓を演奏し交流することができました。高等部では、今後、地域の高等学校と防災学習を通して交流する予定をしています。今後も交流学習の意義を児童生徒、保護者、本校の教職員、相手校の教職員等と共有し、よりよい交流学習となるようにしていきたいと考えます。さらに、これまで以上に、保護者に具体的に学習内容を伝えたり、ホームページで様子を掲載したりすることで、発信していきたいと考えます。
- 児童生徒アンケートの14の項目、保護者、教職員アンケートの15の項目では、特に小学部の保護者の実現度が52.6%と低く、「わからない」の回答率が47.4%と高かったです。小学部では、年に1回進路保護者説明会を実施していますが、家庭訪問やケース会（個別の懇談会）等の機会で、進路や将来について保護者とともに考え、共通理解できるようにしていきたいと考えます。さらに、定期的に発行している“進路だより”に、小・中学部に向けた内容を掲載することも検討していきたい。また、必要に応じて進路や将来を意識した内容の学習を実践し、児童が「夢」や「将来」について考えることや、目標に向かって取り組むことで、学校で学習したこと家庭で話したり、学校と家庭が学習内容を共有したりできるようにしていきたいと考えます。

【学校運営協議会より】

- あいさつや人とのかかわりについて、子どもたちがどの程度理解しているのか分かりやすく、保護者がアンケートに答えにくいのではないかという意見をいただきました。学校生活の中で、子どもたちがあいさつや人とのかかわりについての「できる姿」「しようとしている姿」等を保護者と共有していきたいと考えます。
- 小学部の保護者が進路のことについて実現度が低く、「わからない」という回答も多いことに関して、定期的に配布している進路だよりに、小学部に向けたトピックスを掲載してはどうかというご意見をいただきました。今後、掲載する内容や載せ方等を検討、精査をしていきます。
- PTAで防災倉庫の中身が分かるように写真を貼り、「見える化」を行なった。さらに他校のPTAとの情報共有で得たこととして、簡易トイレの備蓄を始めたところもある。これからも、防災についての対策を進めていきたいというご意見をいただきました。今後も、PTAや地域の方々と連携し、災害等の対策を行なっていきたいと考えます。